

< あなたの治療について >

外科 - ddEC - 乳腺 - q2w

今回の治療は、ddEC という治療法で、エピルピシン（E）とエンドキサン（C）という2種類の注射薬を併用して行います。エピルピシン、エンドキサンは、共に腫瘍の増殖を抑えるお薬です。2つの薬を組み合わせることで、より効果を高めることができます。

治療全体の流れ

今回の化学療法は2週間が1コースとなっています。各コースの1日目に点滴を行います。この治療を2週間（14日間）ごとに4回繰り返します。また、4回繰り返した後、他の治療に移る場合や継続して行われる場合があります。副作用が強く出たり、体調がすぐれない場合は回復するまで、治療を延期したり、お薬の量を減らしたりすることがあります。

1コース分の治療スケジュール

順序	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1日目	2~14日目
	アロキシ デキサート (吐き気止め)	点滴 約30分		お休み
	エピルピシン (抗がん剤) 90mg/m ²	点滴 約10分		
	エンドキサン (抗がん剤) 600mg/m ²	点滴 約30分		

点滴中や点滴後に、注射部位が痛い、赤くなってはれる、水ぶくれができる、ただれるなどの症状に気づいたときは、すぐに申し出てください。また点滴中は、腕を動かすことにより針がずれ、点滴漏れが生ずることがありますので気をつけて下さい。

起こりやすい副作用について（頻度20%以上）

エピルピシンとエンドキサンについて

白血球減少 悪心・嘔吐、食欲不振 脱毛

特徴的な副作用について

エピルピシンにおける

心筋障害

「息切れがする、咳き込む、急に胸が痛む、脈が乱れる、めまいがする」などの症状

うっ血性心不全

「階段や坂道をすこしのぼっただけで息切れがする、疲れやすい；足がむくむ、横になると息苦しく座っている方が楽である、夜間にせき込む」などの症状

エンドキサンにおける

出血性膀胱炎

「排尿時に痛みがある、尿が残っている感じがする、尿の回数が増える、尿が赤みを帯びる」などの症状

*出血性膀胱炎の予防として、水分を十分に摂り、排尿に心がけてください。

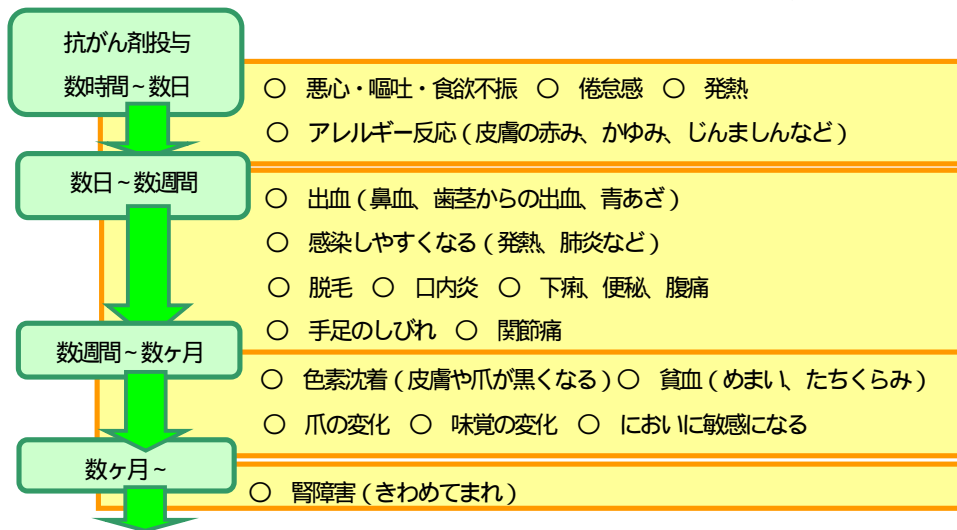
*** 上記症状が現れたときは、必ず医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。**

副作用の発現時期の目安

*この図は、今回用いられている抗癌剤による副作用だけでなく、他の抗癌剤によって起こる副作用も含まれています。

これらの副作用がすべてあらわれるわけではありません。

また、発現する時期や程度も抗がん剤の種類や患者さんの体質により個人差があります。



副作用の対策について

吐き気・嘔吐，下痢と便秘，口内炎，感染症，出血，貧血，脱毛などの副作用の対策について知りたい方は、資料をお渡しすることができますのでお申し出下さい。

**薬品毎の副作用について（添付文書における重大な副作用を製薬会社作成「薬のしおり」などから抜粋）
まれな副作用ですが、このような症状が現れた際には医師・薬剤師・看護師へご相談下さい。**

【エピルピシン】

<心筋障害・うっ血性心不全>階段や坂道をすこしのぼっただけで息切れがする、疲れやすい、夜間にせき込む、急に胸が痛む、脈が乱れる、めまいがする、足がむくむ、横になると息苦しく座っている方が楽である。

<骨髄抑制>熱が出る、寒気がする、喉が痛む、口の中に白い斑点ができる、手足に赤い点(点状出血)または赤いあざ(紫斑)ができる、出血しやすい(歯ぐきの出血・鼻血など) 水のような便がでる、おなかが痛い、口の中の粘膜が荒れ、赤く中が白い小さな潰瘍ができて痛む、通常の生活をしていてだるさが続く、ちょっとした階段や坂で動悸や息切れを感じる、顔色が悪いといわれる、汗をかく、立ち上がった時にめまいがする、力が抜ける、呼吸回数が増加する、胸が痛い、脈拍数が増加する、血を吐く、便に血が混じる(便が黒くなる)。

<ショック>顔が赤く熱くなる、皮膚が痒い、蕁麻疹がでる、唇や舌・手足がしびれる、くしゃみ・咳がでる、気分が悪い、心臓がドキドキする、尿意や便意を生じる、喉がつまる、息が苦しい、目の前が暗くなる。

<心室性期外収縮> 瞬間的に心臓がドキッとしたり、脈が抜けたような感じや息が詰まる感じがする。

【エンドキサン】

<心毒性>胸痛、息が苦しい、脈が乱れる、動悸

<ショック・アナフィラキシー様症状>寒気、吐き気がする、動悸、息が苦しい、発しん、かゆみ

<骨髄抑制>発熱、寒気がする、のどが痛む

<出血性膀胱炎、排尿障害>排尿時に痛みがある、尿が残っている感じがする、尿が赤みを帯びる

<イレウス、胃腸出血>激しい腹痛、お腹がはる感じ、便秘、吐き気がする、発熱、冷汗、血を吐く、便に血が混じる(黒い便がでる)

<間質性肺炎・肺線維症>発熱、咳が出る、息が苦しい

<心筋障害、心不全>胸痛、息が苦しい、脈が乱れる、動悸、疲れやすい、足がむくむ

<抗利尿ホルモン不適合分泌症候群(SIADH)>頭痛、嘔吐、めまい、全身のだるさ

<皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)、中毒性表皮壊死症(Lyell症候群)>発熱、皮膚が赤くなる、皮膚や粘膜の水ぶくれ、全身の皮膚がひどく痛い

上記のほかにも副作用が現れることがあります。

他にもからだの異常を感じたら、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。